

平成31(令和元)年度 嬉野市立嬉野中学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
夢に向かう颯爽とした生徒の育成 ～「嬉中まなび力」「嬉中しぐさ力」「嬉中きずな力」～ 1 嬉野中学生のまなび ・授業を大切にし、真剣に、主体的に勉強する生徒 ・人の教えに学び夢に向かう生徒 2 嬉野中学生のしぐさ ・基本的なしぐさができる生徒 学校:あいさつ、掃除、部活動 家庭:朝食、自主学習、約束(テレビやゲームの時間等) ・おもてなしの精神を実行できる生徒 3 嬉野中学生のきずな ・小学生から中学生へ成長できる生徒(小中連携) ・地域との絆が深まる生徒(コミュニティ・スクール) ・人と人との絆を大切にする生徒	1 まなびの資質 …新学習指導要領全面实施を見据えた「主体的・対話的で深い学び」の実践(西部型授業の徹底、学習規律・家庭学習の定着) 2 たくましさと自信の育成 …家庭や地域と連携を強化した、指導・評価・支援(基本的生活習慣の定着、不登校対策) 3 人権意識の向上 …様々な価値観や違いを認め合う人間関係づくり(人権・同和教育、道徳、学活等)

3 目標・評価

① まなびの資質…学力向上につながる学習規律の確立と家庭学習の継続(課題の工夫、自学ノート、読書の推進) …一人一人の特性に配慮し、個の実態に応じた支援の充実(特別支援教育の充実)

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成	成果と課題	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	指導力の向上 研究の推進	・各教科で計画的に研究を進め、授業改善に取り組む。 ・生徒へのアンケート「授業の内容がだいたいわかる」の項目で80%を上回る。	・テーマに沿った研究授業を行い、全職員が授業公開を行う。また、全職員で参観する授業研究会を年3回実施し、指導力の向上を図る。 ・生徒が自分の考えや意見を表現できるような学習形態を工夫する。	A	○全職員が公開授業を行った。また、年3回の全職員による授業研究会を行い、その成果を各自の授業に生かした。 ○「授業の内容がだいたいわかる」という回答は、87.2%であった。また、「生徒が主体的に活動する場面が多くあると思う」という回答は80.7%であった。	・全職員による公開授業は今後も続け、授業力の更なる向上につなげる。 ・下位の生徒に対する個別の支援の在り方の工夫が必要である。
	○特別支援教育の充実	教員の専門性と意識の向上	・支援を要する全ての生徒に対して、個別の支援計画を作成し、活用する。 ・全ての教師が教室環境や板書の仕方、生徒の状況に配慮した指導の在り方等を理解できるようにする。	・強いこだわりや理解に時間のかかる生徒に対する指導方法の研修を深め、学習環境のUD化を進める。 ・特別支援委員会やケース会議を適宜開催し、学校全体での支援体制を構築する。 ・特別支援教育に関する研修会を定期的に実施し、専門性の向上を図る。 ・特別支援スーパーバイザーの指導助言を日々の教育活動に取り入れる。	A	○全職員が校内外の特別支援教育に関する研修を積み、教室環境の改善、板書やワークシートの工夫など様々な配慮ができるようになった。 ○ユニバーサルデザインの視点を意識した手立てをしている職員は、96%である。 ○発達障害を含む障害のある生徒や支援の必要な生徒に必要なに応じた支援を行っている職員は100%である。 ○特別支援委員会を開き支援の必要な生徒について検討会議を行った。	・全職員がこれまでの研修や指導・助言で得られた支援の手立て等を生かした指導を行う必要がある。 ・生徒一人一人の特性を理解する研修を継続して行う。 ・毎月、定期的に研修会を計画する。
教育活動	●学力の向上	指導方法の改善	・TTの授業に効果を感じる生徒の割合を90%以上にする。 ・生徒へのアンケート「勉強がわかりやすくなった」、「勉強が楽しくなった」の項目で前年度の3%増加を目指す。	・「主体的・対話的で深い学び」のある実践を行うため単元計画を見直し、生徒の意欲を引き出し、伝え合う力の向上を目指す。 ・TTを積極的に活用し、生徒一人一人の能力に応じてきめ細かな指導を行う。特にT2の役割を明確にし、効果的な指導の在り方を追求する。	B	△県学習状況調査の結果、1年生は英語以外の4教科で県平均を下回っている。2年生では、社会で県平均を下回っている。 △「TTで行われる授業は分かりやすい」と答えた生徒は、1年生84.0%、2年生71.7%、3年生70.5%であった。数学や理科で毎時間TTを実施している1年生では、8割以上の生徒が効果を感じているが、毎時間TTによる授業を行っている12、3年生では、限られた機会でのT2の効果的な活用が課題である。	・学んだこと定着させるため、小テストや問題演習などの手立てが必要である。 ・T1,T2が事前に授業の教材研究を行い、授業内容を確認し、2人の役割分担を確認することで、効果的な授業にする必要がある。
		家庭学習の習慣化(個に応じた支援等)	・生徒、職員のアンケート「毎日家庭学習をしている」の項目で90%を上回る。 ・自学ノートの質の向上を図る。	・自主学習について、具体的方策を提示する。 ・家庭での時間の使い方など、生活リズムについて振り返らせる。 ・学年で統一した課題を用意する。 ・個に応じた課題の質や量を工夫する。	B	△毎日の家庭学習の時間が1時間未満の生徒の割合は44.0%である。 △自分で計画を立てて勉強している生徒は57.6%である。 ○各学年で自主学習について具体的に指導を行った。	・家庭学習の習慣化に向け、引き続き家庭への呼びかけをする。 ・家庭学習の具体的な方法(タイムマネジメントも含む)を各教科で、または学年で指導

② しぐさの資質…家庭・小学校と連携し、基本的生活習慣の確立(挨拶・掃除・時間厳守)

教育活動	●心の教育	おもてなしの精神できちんとした挨拶と毎日の丁寧な掃除	・生徒、職員のアンケート「挨拶ができています」の項目の好意的な評価が90%を上回る。 ・生徒へのアンケート「掃除を時間いっぱい意欲的に行っている」の項目と、職員へのアンケート「掃除区域で生徒と共に掃除を時間いっぱい行っている」の項目でそれぞれ好意的評価が90%を上	・職員が自ら、積極的に挨拶や掃除を行い、手本を示す。 ・掃除では、年度初めに掃除の仕方を身につけさせ、継続的に指導を行う。 ・生徒会活動でも挨拶や掃除に関する意識向上の取組を行う。	A	○うれしガーデンの認識度は、生徒91.4%、保護者94.9%である。嬉野中学校がコミュニティ・スクールであることを認識している保護者は80%である。 ○1年生は、給付け体験やうれしカーニバルへの参加、2年生は、各事業所での職場体験、3年生は学習の成果を「う嬉野よかとこ提案書」としてまとめることができた。 ○学校行事にはたくさんの方に参観いただくことができた。文化発表会には370名の来校者があった ○学校便りの返信には、毎回たくさんの好意的な意見が寄せられている。	・学校だけでは解決できないこと、地域や家庭にお願いすることの棲み分けに工夫が必要である。
		人権教育と情報モラル教育の充実	・道徳の時間の指導法の工夫に努める。 ・「生きる力の教科書」を活用した情報モラル教育の授業を年間1回以上実施し、生徒の意識の向上を図る。	・授業で学んだことを大切にするため、学年の道徳コーナーを作る。活動の様子は学級通信で保護者にも伝える。QUテストの考察を行い、人権の視点に立った授業や体験活動を行う。 ・各学年、「生きる力」の教科書を使用し、年間1回以上情報モラルに関する単元の授業を実施する。	A	○アンケートや日頃からの観察、相談、SCからの情報などにより、細かな変化を見逃さない取組を続けている。 △「いじめを受けていない、していない、見逃していない」という回答の割合は、3年生については1回目の調査から2回目の方が減っている。 ○SNSの危険性を理解している生徒の割合は、97.8%であった。 ○SNSの危険性に対する指導は、「生きる力の教科書」や生徒	・「いじめを受けていない、していない、見逃していない」という項目で6.5%の生徒がそう思わないと感じていることは見逃せない数字である。 ・いじめ防止の取組み、いじめに対する認識を高める取組が必要である。
教育活動	●健康・体づくり	運動・栄養・休養のバランスのとれた生活習慣の確立	・運動に積極的に取り組む生徒の割合を90%以上にする。 ・朝食を摂って登校する生徒の割合を90%以上にする。 ・睡眠時間を7時間以上取る生徒の割合を90%以上にする。	・体育の授業や運動部活動に適切に、意欲的に取り組む。 ・家庭と連携し、「早寝、早起き、朝ごはん」に積極的に取り組む。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーとの取組と連携し、家庭での時間の使い方の改善を図る。	B	○アンケートや日頃からの観察、相談などにより、細かな変化を見逃さない取組を続けている。 ○体育の授業や運動部活動に90%以上の生徒が意欲的に取り組んでいる。 △朝食の摂取率は、90%以上だが、睡眠時間7時間以上は80%で早寝早起きの指導が必要。 ○毎月のノーテレビ、ノーゲームデーは、家庭と連携して70%の取り組みができています。	・睡眠時間が、学年が上がるにつれて短くなっている。睡眠の大切さを知らせること、帰宅してから時間の使い方など指導していく必要がある。

③ きずなの資質…人権尊重を意識させた活動、社会や地域貢献を意識させた活動(出番・役割・承認)

学校運営	○地域・保護者・小学校等との連携	学校運営協議会の充実 情報発信 小中連携研修会	・学校に期待されている事柄をしっかりと踏まえ、地域の誇れる教育活動を展開する。 ・授業参観や学校・PTA行事等、保護者の参加率を前年度より上げる。 ・嬉野中学校区として「9年間で育てる」ことを意識し、小学校との連携を深める。	・学校運営協議会の協力を得て、地域や保護者を巻き込み行事の効果的な在り方を探る。また、「総合的な学習の時間」を活用して、生徒が地域の目を向ける場面を設定する。 ・「学校便り」や「HP」などの充実を図り、分かりやすく生徒の活動や学習の状況、行事等の情報発信を行う。 ・些細なことでも、小中の職員が互いに情報交換がしやすい環境を整え、研修においてはより一層深まりのあるものにする。	A	○嬉野中学校がコミュニティ・スクールであることを認識している保護者は76%であった。 ○「総合的な学習の時間」を活用して、1年生は、給付け体験やうれしカーニバル、堤干しへの参加、2年生は、各事業所での職場体験、3年生は、修学旅行を通して他の地域と比較し、嬉野のよさを学ぶことができた。 ○学校行事にはたくさんの方に参観いただくことができた。日曜開催の体育大会や文化発表会は特に来校者が多かった。 ○小中連携の取組みとして、音楽と美術で小学校への乗り入れ授業を行った。お互いを知るよい機会となった。	・各行事の目的に応じて、地域や家庭にお願いすることを明確にし、早めの情報発信を行う。 ・小学校への乗り入れ授業を継続、拡大していく。
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止・早期発見・早期対応・早期解消	・「いじめを受けていない、いじめをしていない、いじめを見逃していない」という回答が、95%以上になるよう努める。 ・SNSの危険性を理解している生徒の割合を90%以上にする。	・年3回以上いじめアンケートとSNS調査を行い、いじめ撲滅とSNSの危険性への意識を高めさせる。 ・教員の情報リテラシーについての知識を高め、指導力の向上を図る。	A	○アンケートや日頃からの観察、相談などにより、細かな変化を見逃さない取組を続けている。 △「いじめを受けていない、していない、見逃していない」という回答は、93.4%であった。 ○SNSの危険性を理解している生徒の割合は、97.8%であり、前年度より増えている。 ○SNSの危険性に対する指導は、「生きる力の教科書」や長期休業前、入学説明会でも取り上げて指導している。	・「いじめを受けていない、していない、見逃していない」という項目で6.6%の生徒がそう思わないと感じていることは見逃せない数字である。 毎年いじめの認知・覚知があり、いじめに対する認識を高める取組が必要である。

④ 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・時間外勤務を昨年度よりも10%削減する。 ・行事の精選や校務分掌の整理、役割分担の明確化に取り組む。 ・効率的な業務遂行のためにICTの有効活用をしやすい環境を整える。	・各教職員の勤務時間を確実に把握する。 ・行事ごとにその必要性を吟味する。また、総合的な学習の時間の指導内容を整理し、焦点化する。 ・年間の行事や分掌事務、各種活動を一覧(ビジュアル)化し、校務サーバーと連携一体化させ、すぐに項目に係る資料や活動内容を表示するシステム化を図る。 ・休日の部活動時間の効率的な活用策をはかり、削減・短縮を積極的に進める。	A	○時間外勤務の時間数は昨年度より30%以上減少している。部活動休養日の実施や定時退勤日、職員の意識が高まっていることがあげられる。 ○行事にかかる準備や練習時間の縮減や効果的な進行により、職員の負担軽減につながってきている。	・できる限りの行事の精選や業務の効率化、外部への委託など工夫が必要である。
------	--------------------	------------	---	---	---	---	---------------------------------------

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目

4 本年度のまとめ・次年度の取り組み

「まなび力」の観点から
○基礎・基本の徹底 ○「知力・体力・人間力」の向上 ○生徒主体の活動を多く取り入れた「学びの質」の向上
「しぐさ力」の観点から
○やるべきことをいつでもどこでも発揮できる「本物の力」の育成 ○普段の生活の充実 ○基本的生活習慣の徹底
「きずな力」の観点から

